

杉浦 忠投手 着用ユニホーム

本連載は2009年からスタートしており、今回で通算40回、10周年を迎えました。連載第1回は、ちょうどこの年に当博物館が創立50周年を迎えたことを紹介しています。当館が開館した1959（昭和34）年は、セ・パ両リーグがスタートして10シーズン目で、6月25日の巨人対阪神戦（後楽園）での天覧試合と、南海ホークスの悲願の日本一が2大トピックとして挙げられます。天覧試合については本連載の第34回でも紹介しており、今回は南海の日本一と同年MVPの杉浦忠投手についてご紹介したいと思います。

杉浦忠投手は、拳母高（現・愛知県立豊田西高）から立大に進み、2年時からアンダースロー投手となりエースとして活躍。1958年に南海に入団すると、1年目に27勝をあげ新人王を獲得。59年には38勝4敗、防御率1.40という驚異的な成績でチームをリーグ優勝に導き、MVPを受賞しています。日本シリーズでは、立大時代の同期である長嶋茂雄選手が中心選手として活躍している読売ジャイアンツと対戦、ここでも“伝説的”な活躍を見せます。

10月24日（土）の第1戦（大阪球場）は先発して8回3失点で勝利投手（後続が打たれるも10-7で勝利）。翌25日（日）はベンチスタートで、チームが勝ち越した直後の5回から登板、7回に王貞治選手、森昌彦選手の連打で1点を失うも後続を抑え、6-3の勝利に導きました。27日（火）の第3戦（後楽園球場）では再び先発、9回裏に同点本塁打を被弾しますが、10回表にチームが勝ち越し3-2で3連勝、王手をかけました。

28日（水）の第4戦、勝負をかけた鶴岡一人監督は杉浦投手を三度先発のマウンドに送ります。杉浦投手は要所を抑え被安打5無失点で完封勝利（3-0）をあげ、南海を初の日本一に導きました。杉浦投手の球数は4試合で436球、4連投で4連勝は日本シリーズ唯一の大記録です。

写真のユニホームは、俳優で歌手の故・小坂一也氏の旧蔵品で、杉浦さんご本人からプレゼントされたものとのことです。昨年、ご遺族から当博物館に寄贈されました。ご遺族は小坂氏から“南海が優勝した時のもの”と聞いているとのこと、パンツの腰に背番号が付いていないタイプであること

から、1959年の着用品ではないかと思われます。このユニホームは、開催中の企画展「野球殿堂ってなあに？」にて展示中（会期～6月23日）です。ぜひご覧ください。



展示では背番号(21)を公開しています。

公益財団法人 野球殿堂博物館
学芸員 関口貴広